

7 簡易な自動車両消毒装置

| | |
|-------|---|
| キーワード | 自動車両消毒 |
| 担当 | 奥羽牧場 飼料課 |
| 連絡先 | 電話：0176-62-3281 ファックス：0176-62-3283 電子メール：nlbc_ohu@nlbc.go.jp |

1 背景・ねらい

平成12年の口蹄疫の発生を契機に、牛であっても、豚や鶏のように伝染病対策に神経を使っておられる方が多く見られるようになりました。奥羽牧場も、伝染病の侵入・まん延を防止するため、複数の作業単位区分毎に防疫ゾーンを設けて、各防疫ゾーンに車両が出入りする際に徹底した消毒を行っています。

市販されている一般的な車両消毒施設は、アーチ式で車両全体を消毒するシステムになっていますが、当场では、キャビンの無いトラクターが多いため使用できない状況です。また、車両が防疫ゾーンに進入するたびに手動による消毒液の噴霧作業を行っていたのでは効率的ではありません。

そこで、キャビンの無いトラクターにも対応でき、車両が通過すると自動的に消毒液が噴霧され、車両のタイヤを消毒できる装置を考案しました。

2 内容・特徴・効果

考案した施設の構造は、下図のとおりです。資材費として、ポンプ・モーター、センサー関係、埋設・水道工事関係等で約100万円を要しました。なお、センサーの配電盤工事は専門業者に依頼しましたが、その他の設置作業は自ら行うことが可能です。

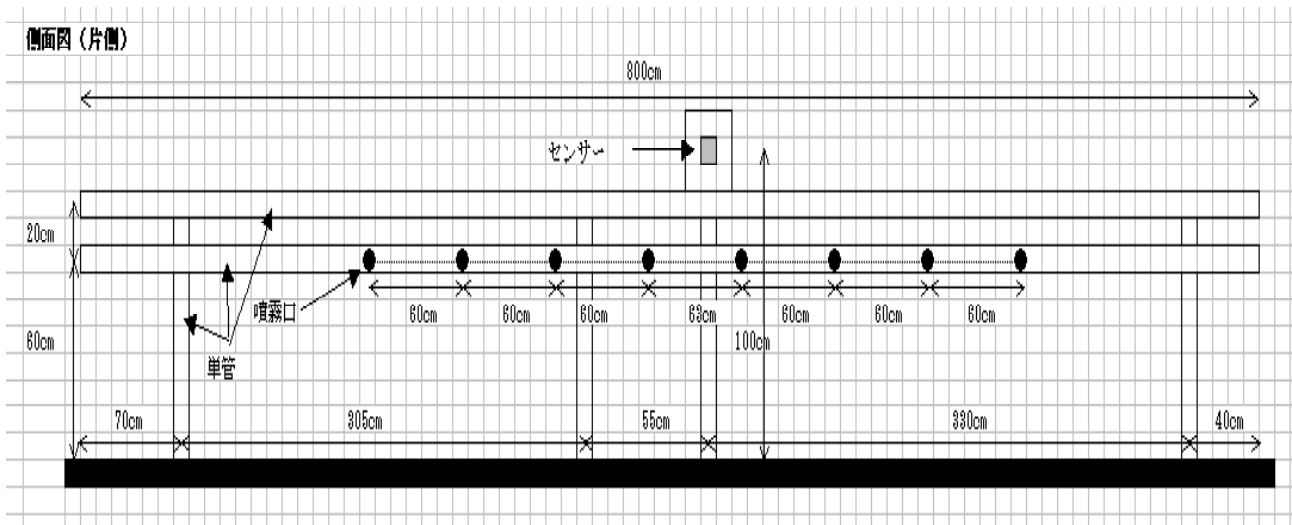


図1 断面図



写真1



写真2

写真1の左端に写っているプレハブ小屋の様子が写真2です。プレハブ小屋の中には、消毒液タンク、ポンプ、モーターが設置されています。写真1の右端の防風ネットは、風による消毒液の飛散を防ぐためのものです。



写真3

写真3はトラック通過時の消毒液の噴霧状況です。噴口は片側8個、両側で16個あり、十分な消毒効果が得られます。



写真4

写真4のとおり、冬期間の凍結防止のため、ホース、噴口、噴口を溶接している銅パイプに電熱線を巻き、さらにその上から保温テープを巻いています。

こうすることより外気温がマイナス15℃であっても凍結することなく使用しています。